



読者からの声

石川医報の「読者からの声」は、会員がいろいろな意見を交換する場です。
ぜひ、皆様からのご意見、ご投稿をお待ちしております。
(編集部より)

女性医師の窓

あるあるネタ

石川県立中央病院 松本 泰子

本屋さんで「野球部あるある」という本を発見、笑い転げました。長年、子供の野球に振りまわされた私のツボにはまったのは、「親に背番号を縫い付けてもらうが、貼る位置が下過ぎる」といったドジなママ編、「練習試合の合間のトンボ争奪戦、そこにあるのは優しさではなく、監督に怒られる恐怖のみ」といった怖い監督編など、「確かに～！そんなことあるある～!!」と心から笑えるエピソード。

こういったものを、「あるあるネタ」というらしいです。ウィキペディアでは、「日常生活などで多くの人を経験しているような身の回りの些細なことを挙げたり、観客の共感を得ることで笑いを誘う演芸などの手法のひとつ」とのことです。ちょっと、興味を引いたので、医療者での「あるあるネタ」を調べてみたところ…。

◆入院時、バラバラになった薬が大量にはいつてる缶を手渡された時の絶望感

これぞ、医療者としては、拍手したいくらいのあるあるネタ！ 日々、看護師さんたちの忍耐強さには感心させられますが、入院時の患者さんの荷物の一つとして、年代物の大きなお菓子箱にばらばらに入った大量の薬をみて、愕然とする気持ち。それが、よく、表れています。しかも、それが、日勤終了目の前の緊急入院だったら…と考えると、ホント、絶望的な気持ちになるでしょうね。ゴールテープ直前で転倒したような…。

こんな一見絶望的なエピソードも、みんなで笑えば乗り越えられる！そんな感じで、あるあるネタには、人を元気にする要素もあり、魅力的だなあと思います。そこで、医師のあるあるネタ、作ってみました。

<プライベート編>

- ◆友達と別れる時に、つい、「お大事に～」と出る
- ◆家族の腕の血管を探し、「いい血管してるね～」と撫でまわしてしまう

<院内編>

- ◆外来や当直の日に、悪天候だとちょっと嬉しい
- ◆金曜日夕方の外線電話が怖い
- ◆今度こそ！と意気込む割に、毎回お茶濁しの学会発表となる
- ◆診察終了！と思ったところで、おもむろに複雑な診断書を机に出された時の泣きたい気持ち
- ◆めまいがするという方に片足立ちを指示して、自分もしたら、自分が先に倒れる
- ◆混んでいる外来で、「今回、便秘薬は不要」と言われたのに、焦って前回処方をする do 処方し、薬局からの問

いあわせで、さらに時間が取られ・・・そんなときに限って、プリンターまで調子が狂う

う～ん、だんだん具体的長文となってしまいましたが、いかがでしょうか？ それぞれの立場でいろんなあるあるネタが思い浮かんでいませんか？ 「あるあるネタ」は、日々同じ苦勞を味わっているメンバーこそが心から共感でき、心から笑えるといった代物なのです。こんな「あるあるネタ」を参考に、疲れたときに、現実をちょっと笑いに変えて、同じ思いを持って頑張っているメンバーと一緒に、笑い飛ばしながら、元気に仕事をしていきたいなあ・・・と思っています。